

川南町バイオマス活用推進計画 (川南町バイオマス産業都市構想)



KAWAMINAMI
QUALITY

MADE in JAPAN
MADE by KAWAMINAMI PERSONALITY



令和3年7月

宮崎県川南町

目 次

はじめに

1 地域の概要

1.1 対象地域の範囲.....	2
1.2 作成主体.....	3
1.3 社会的特色.....	3
1.3.1 歴史・沿革.....	3
1.3.2 人口.....	3
1.4 地理的特色.....	6
1.4.1 位置・地形.....	6
1.4.2 交通体系.....	6
1.4.3 気候.....	7
1.4.4 面積.....	8
1.5 経済的特色.....	9
1.5.1 産業別人口.....	9
1.5.2 事業所数.....	10
1.5.3 耕種農業・畜産農業.....	11
1.5.4 林業.....	11
1.5.5 商業.....	14
1.5.6 工業(製造業).....	15
1.6 再生可能エネルギーの取組.....	17

2 地域のバイオマス利用の現状と課題

2.1 バイオマス種類別賦存量と利用量.....	19
2.2 バイオマス活用状況及び課題.....	22

3 目指すべき将来像と目標

3.1 背景と趣旨.....	25
3.2 目指すべき将来像.....	26
3.3 達成すべき目標.....	27
3.3.1 計画期間.....	27
3.3.2 バイオマス利用目標.....	27

4 事業化プロジェクト

4.1 基本方針.....	29
4.2 木質チップ面的活用プロジェクト.....	30

4.3	家畜排せつ物・食品廃棄物メタン発酵プロジェクト	35
4.4	その他のバイオマス活用プロジェクト(既存及び新規取組の推進)	38
4.5	バイオマス以外の再生可能エネルギー	38
5	地域波及効果	
5.1	経済波及効果	39
5.2	新規雇用創出効果	40
5.3	その他の波及効果	41
5.4	その他の地域波及効果の指標	42
6	実施体制	
6.1	構想の推進体制	43
6.2	検討状況	44
7	フォローアップの方法	
7.1	取組工程	46
7.2	進捗状況の管理	47
7.3	効果の検証	48
7.3.1	取組効果の客観的検証	48
7.3.2	中間評価と事後評価	49
8	他の地域計画との有機的連携	51

はじめに

川南町バイオマス産業都市構想の策定にあたり、一言御挨拶申し上げます。

本町は山と海、そして広大な平野もあり、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた全国有数の食糧生産地となっています。

青森県十和田市、福島県矢吹町とともに、戦後の大規模国営開拓事業が様々な技術的困難を乗り越えて成功した三大開拓地の一つとして数えられ、全国から農業を志す人々が集まってきたことから「川南合衆国」とも呼ばれています。耕種農業は、いちご、きゅうり等の施設野菜や、キャベツ、スイートコーン、レタス等の露地野菜など、種類も豊富で味も確かな青果物が生産されています。畜産農業は、宮崎牛やブランド豚、肉用鶏の生産量が多く「畜産王国」と呼ばれるほど盛んであります。以上より農業は本町の基幹産業となっています。



一方で本町の総人口は昭和 61 年の 18,600 人をピークに減少傾向であり、老年人口（65 歳以上）が増加していますが、生産年齢人口（15～64 歳）は大きく減少して、各産業における後継者不足、担い手不足が顕著となっています。本町では、こういった状況に歯止めをかけるべく、平成 29 年度に人口対策係を設置し様々な施策に取り組んだ結果、平成 28 年度から令和元年度にかけて、県内町村において移住者数が 1 位になりました。

また近年、地震、豪雨、台風等は、大規模災害を引き起こす状況にあります。南海トラフ巨大地震も危惧される中、各地域に防災備蓄倉庫・非常用発電設備の設置等を行い、津波を想定した避難路の整備を進め、災害にも対応できる持続可能なまちづくりを進めているところです。再生可能エネルギーにつきましては民間事業者を中心に活用を進めてまいりましたが、さらなる活用促進と循環型のまちづくりの推進を目的に、総務省の支援を受け、平成 28 年度に「分散型エネルギーインフラプロジェクト・マスタープラン」を策定し、未利用資源の有効活用について検証しました。

今年度はこれまでの成果を踏まえ、バイオマス産業都市構想として、町を主体とした木質バイオマスや家畜排せつ物、食品工場残さ等のエネルギー化計画を策定しました。策定後は各プロジェクトの詳細設計および可能性調査を経て、プロジェクトの実現を目指します。本構想がバイオマス資源の循環による地域活性化と災害にも強い持続可能なまちづくり実現に向けた更なる大きな一歩となることを祈念しております。

最後に、本構想の策定にあたり、外部有識者や関連する関係者様から多くの有益な情報提供、助言を賜りました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

令和 3 年 7 月 川南町長 日高 昭彦

1 地域の概要

1.1 対象地域の範囲

本構想の対象地域は、宮崎県児湯郡川南町とします。本町は宮崎県の中央部に位置し、東は日向灘、西は木城町、南は高鍋町、北は都農町と隣接しています。



図1 川南町の位置



(出典：川南合衆国)

図2 川南町 観光マップ

1.2 作成主体

本構想の作成主体は、宮崎県児湯郡川南町とします。

1.3 社会的特色

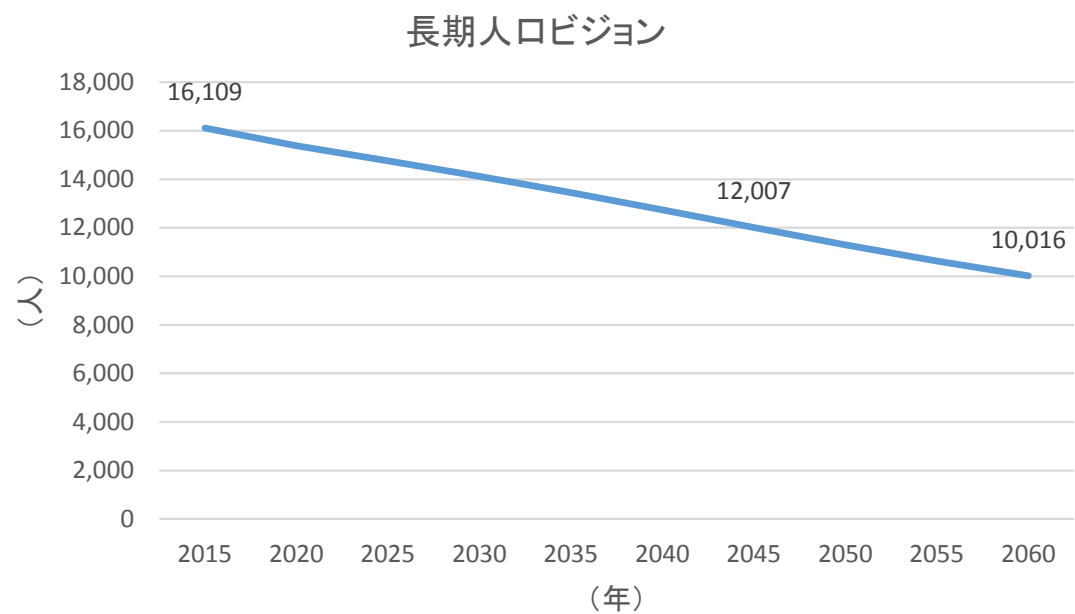
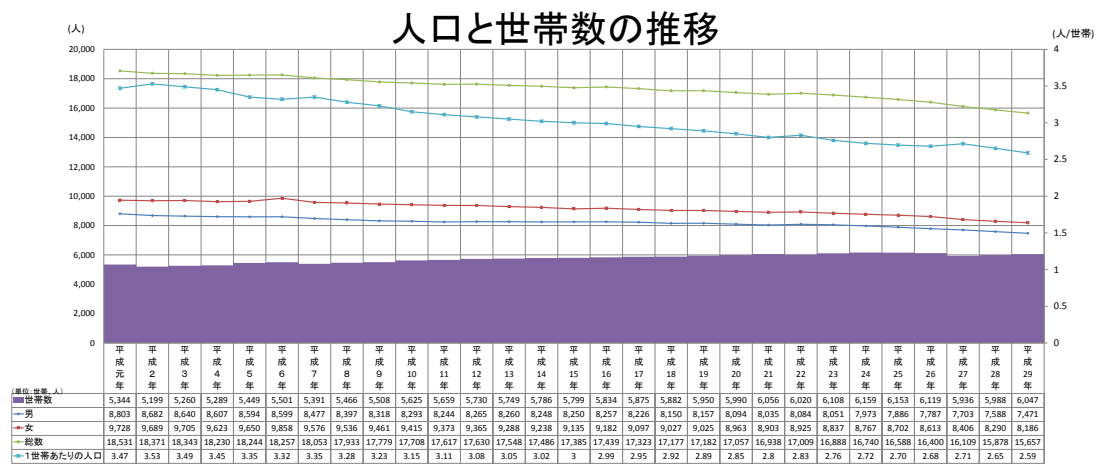
1.3.1 歴史・沿革

川南町は、昭和 28 年 2 月 11 日に川南村と平田村が合併し誕生しました。戦後の大規模国営開拓事業により全国から入植者が移り寄せ、様々な技術的困難を乗り越えて成功したことから、青森県十和田市、福島県矢吹町とともに、日本三大開拓地のひとつとして数えられています。

1.3.2 人口

本町の総人口は、15,657 人（平成 29 年）であります。平成 19 年の 17,182 人から 10 年間で 1,525 人の減少となっており、更に現在から 40 年後の 2060 年の人口予測では 9,000 人台に迫ると見込まれ、減少傾向は加速度的であると言えます。また、老年人口については、平成 17 年の 4,177 人（24.1%）から平成 27 年の 5,076 人（31.5%）となり、10 年間で人数、構成比率ともに増加しており、これは国や県より早いペースであります。

現在、国は平成 26 年まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」及び「総合戦略」「基本方針」の制定に基づき、急速な少子高齢化の進展に対応し、日本全体、特に地方の人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目指しています。この取組を受け、本町においても、人口動向を分析し、将来の人口の展望を示した「人口ビジョン」及び「川南町地方創生総合戦略」を策定し、活力ある町を目指しています。



(出典：川南町地方創生総合戦略)

図3 人口推移および人口ビジョン

Topics : 「川南合衆国」

戦後まもない頃、国による開拓事業が始まると、大勢の移住者が川南に押し寄せ、着の身着のままで土地を切り開きました。旧農林省発行の「戦後開拓史」には、国営開墾事業の中でも特に規模が大きく、旧軍用地の解放などの共通点を持ち合わせた中で様々な技術的困難を克服し、成功を収めた地域として、本町は青森県十和田市、福島県矢吹町とあわせた「三大開拓地」の一つとしてあげられています。

このような背景の中、開拓者たちの出身地が全都道府県に及んでいることから、親しみも込めて「川南合衆国」と呼ばれています。移住の町ならではの多様性を認める町民性と先人から受け継がれる「フロンティアスピリット」があふれています。

川南町行政としても、町外からの移住者(勤務地が町内にある人や新婚世帯)に 3 年間家賃の一部を助成や子育て世帯の戸建て建設・購入に最大 100 万円を助成するなど、新規移住者を積極的に支援しています。



川南町移住定住サイト「川南合衆国」<https://life-kawaminami.jp/>

1.4 地理的特色

1.4.1 位置・地形

本町は、宮崎県沿岸部の中央に位置し、東は日向灘に面し、西は木城町、南は高鍋町、北は名貫川を境に都農町と接しており、総面積は、90.12km²となっています。純農村地域で、大部分は標高 50m 前後の台地となっており、国光原、唐瀬原台地は、戦後における日本屈指の大開拓地であります。

西側の一部は尾鈴山地で、その麓より河成段丘が広がり、これが海岸付近まで迫っています。町の中心部を平田川が流れ、町の北端部を名貫川が流れています。川南町の町名の由来は、この名貫川の南に位置することに因んでいます。

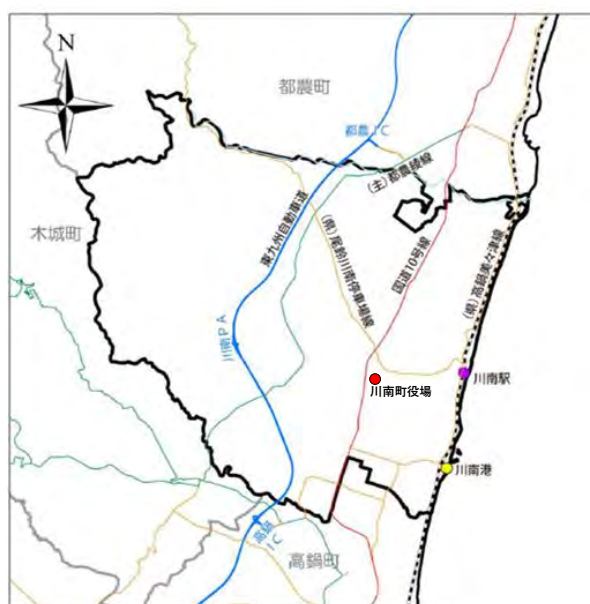
1.4.2 交通体系

本町の交通体系は、主要幹線道路として国道 10 号が町を縦貫しており、県道 40 号(都農綾線)が町のほぼ中央を南北に、県道 307 号(尾鈴川南停車場線)が東西につなぎ、これが町の基幹的な道路となっています。

宮崎空港は、東京羽田・成田、名古屋中部、大阪関空、大阪伊丹、福岡、沖縄と定期便が発着しています。宮崎空港から川南駅までは約 50km、所要時間は約 1 時間であります。

鉄道は、町の東部海沿いを JR 日豊本線が縦貫し、その海沿いに川南駅がありますが、町の中心部から離れています。

高速道路は、平成 28 年 4 月に東九州道椎田南 IC～豊前 IC 間が開通し、北九州市から宮崎市まで接続されたことで、九州地方における循環型高速道路ネットワークが形成されました。

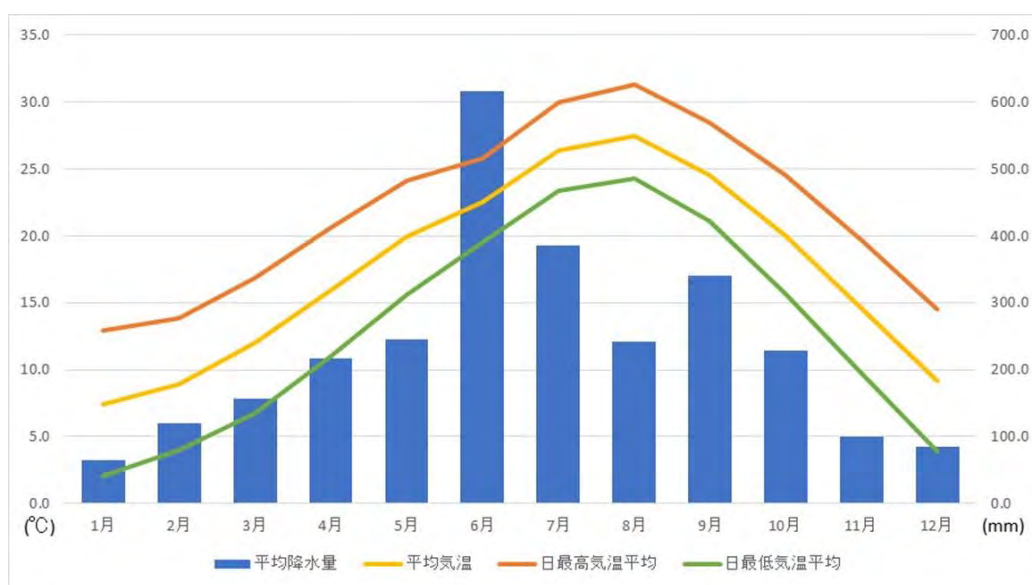


(出典：川南町都市計画)

図 4 町内の広域交通網構成

1.4.3 気候

本町周辺の年間平均気温は 17.4℃、平均日最高気温が 21.9℃、平均日最低気温が 13.1℃となっており、積雪もなく年間を通じて温暖な気候に恵まれています。降水量は、梅雨時期や台風シーズンに偏りますが、平均年間降水日数は 120 日で、平均年間降水量は 2,804mm となっています。また、年間日照時間も平均 2,144 時間と比較的多く、南九州沿岸特有の温暖多湿な気候で、農作物栽培には極めて恵まれた条件下となっています。

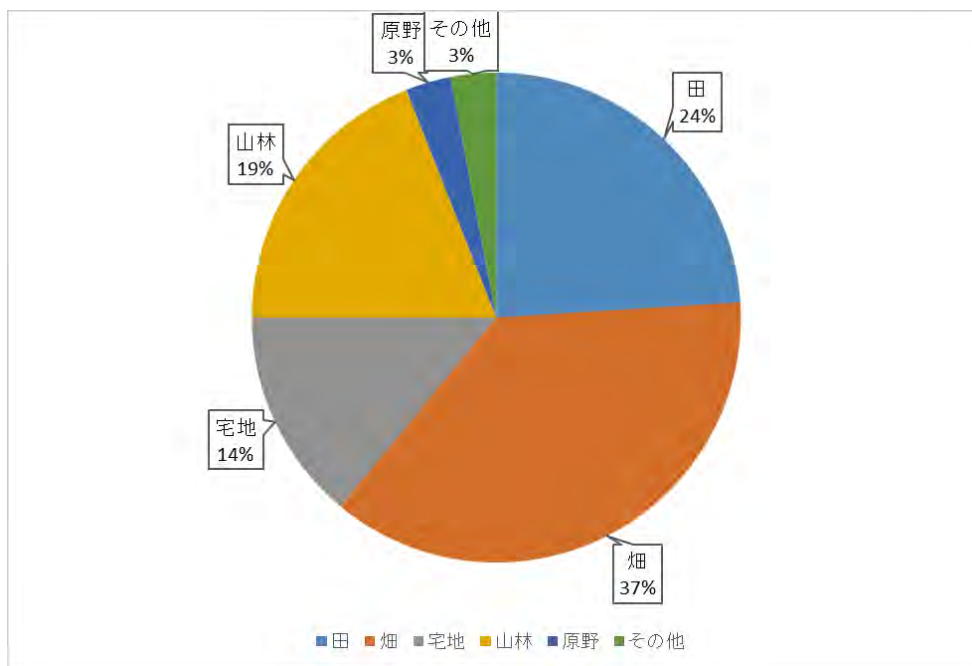


(出典：気象庁統計資料)

図5 川南地域の気温・降水量(平成22年～令和2年の平均値 観測点：高鍋町)

1.4.4 面積

本町の町域は東西約 12km、南東約 10km に及ぶ総面積は 90.12km² です。固定資産概要調書によると、地目別では畑(37%)が最も多く、次に田(24%)、山林(19%)、宅地(14%)、原野(3%)、その他(3%)で構成されています。



(出所：令和 2 年度固定資産概要調書)

図 6 土地利用状況（平成 30 年）

1.5 経済的特色

1.5.1 産業別人口

本町の産業別の人口の割合(図7)は、平成28年で第1次産業が30.9%、第2次産業が21.1%、第3次産業が48.0%となっています。

産業分類別の従業者の内訳(図8)は、農業従業者が最も多く、全体の27%を占めています。年齢別に見る(図9)と70歳以上の就業者の離農が進んでおり、平成27年時点で構成率が最も多い60代の離農が予想される5～10年後には更なる担い手不足の深刻化が懸念されます。この対策として、川南町では就農支援を積極的に推進しており、20代～30代の就農者が増加していることから一定の効果が表れていると考えられます。

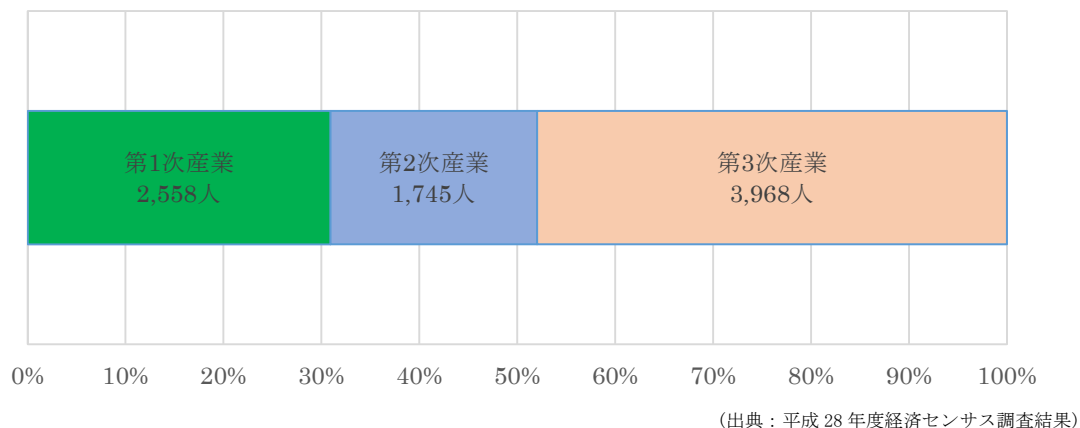


図7 産業別就業者数(平成28年)

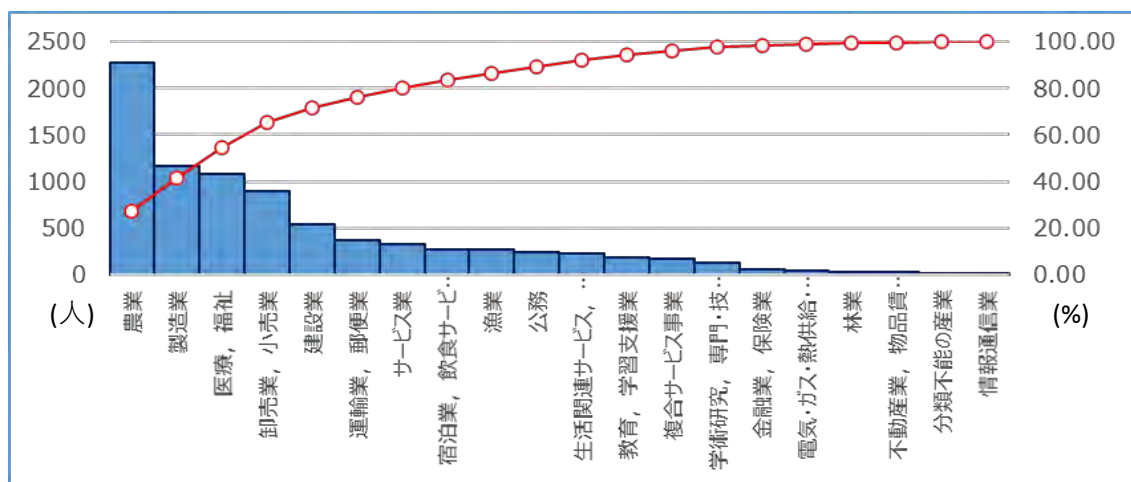
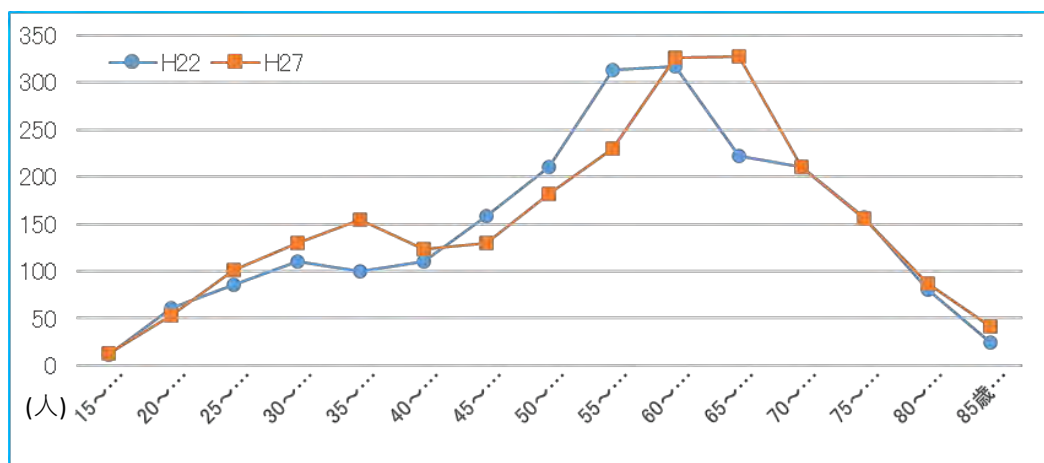


図8 産業分類別就業者数(平成28年)



(出典：平成 27 年度農業センサス調査結果)

図 9 農業従事者数比較

1.5.2 事業所数

平成 28 年国勢調査結果でみると、本町には 610 の事業所があります。産業分類別の内訳では、卸売・小売業 23%、宿泊業・飲食サービス業 10%、建設業 10%、製造業 10% となっています。こうした状況から町内で発生する産業廃棄物系バイオマスは建設発生木材や食品系バイオマスが比較的多いものと推測されます。